

## オンライン朝会「慮る（おもんばかり）」 3 / 9

今年度最後の全校朝会です。「一番大切なもの」は、そう、「いのち」ですね。そして、「いのち」とともに「こころ」も一番大切です。今日は「こころ」のお話です。

さて、この漢字『慮る』読める人はいますか？ 難しいですね。これは「おもんばかり」と読みます。意味も難しいので、ヒントの漢字を出します。難しい順に出します。だんだんやさしくなるので、みなさんも、どこかで「あ～、そうかあ～、なるほど～」となると思います。

「察する」→「推し量る」→「配慮する」→「気くぱり」→「心くぱり」→「思いやり」…、もうなんとなく分かってきましたか？ やさしい言い方をすると“**相手を思いやる心**”です。難しく言うと「相手の立場に立って、相手の状況や気持ちを想像して、思いを巡らせて思いやること」です。

たとえば、みなさんも、たてわり班活動の時、園の子たちが来た時、自分より小さな子と接する時、その子の気持ちになって、今どう思っているのかな、何に困っているのかな、と思いを巡らせていますね。自分にとってどうか、ではなく、**相手にとってどうか**、それが「慮る」ということです。相手とは、小さな子に対してだけではなく、友達や年上の子、家族、大人…、みんなです。ここで、詩を紹介します。

相手の目で見たら どのように見えるだろう  
相手の耳で聞いたら どのように聞こえるだろう  
相手の心で感じたら どのように感じるだろう  
いくら頑張っても  
相手の気持ちにはなれないし 立場にもなれない  
だけど**相手を思いやる気持ちは きっと相手に伝わる**

そんな風に相手の気持ちになって接していたら、きっと、あなたの思いやりの気持ちは、相手に伝わります。

逆に、相手のことを考えず、自分のことばかり考えていると、それも相手に伝わります。自分のことだけを守って、相手を攻撃していたらどうなるか。自分のイライラを相手にぶつけていたらどうなるか。ケンカになるかも知れませんね。そして、今、世界に目を向けると、こんなことになっています。戦争です。とても悲しいですね。

日本ではどうか？ みなさんは「3.11を忘れない」という言葉を知っていますか？ 15年前の3月11日、東北地方を中心にとっても大きな被害をもたらした東日本大震災が発生しました。この震災によりかけがえのない多くの命が失われました。今も多くの人たちが苦しんでいます。

でも、そんな時でも、被災地で苦しんでいる人々も、日本中の人々が、手を取り合い、今、自分に何ができるか、一生懸命考えて行動していました。自分のことで限界のはずなのに、**相手を慮る気持ちいっぱい、自分のことよりも相手のことを思いやり行動していました。**

自分が苦しい時、相手のことを慮ることができる。すごいことです。

みなさんには、**そういう大人になってほしい**と、心から願います。

